

令和5年度 第2回三条市こども未来委員会会議録（概要）	
日 時	令和5年6月5日（月）午後1時30分～3時05分
場 所	三条市役所栄庁舎3階 大会議室
出席者	出席委員：真壁委員長、佐藤副委員長、小池委員、渡辺委員、福田委員、山田委員、近藤委員、堀委員、片桐委員、坂井委員、石黒委員、野崎委員、水澤委員 欠席委員：新保委員、浅野委員 事務局：平岡教育部長、小林子育て支援課長、坂井課長補佐、相場センター長、飯田総合支援係長、草野幼児・児童係長、五十嵐子育て支援係長、石田主任 傍聴者：なし 報道機関：株式会社三條新聞社
委 員 会 内 容	
	<p>【次第】</p> <p>1 開 会 午後1時30分開会</p> <p>2 あいさつ 平岡教育部長より挨拶</p> <p>3 議 事</p> <p> 令和4年度子育て支援推進状況報告書（「すまいる子ども・若者プラン」）</p> <p> （小林課長）</p> <p> 令和4年度子育て支援推進状況報告書（「すまいる子ども・若者プラン」）について、配布資料に基づき説明</p> <p>【質疑】</p> <p>堀委員 資料4ページの待機児童数について、令和4年度1人となっているが、年度当初は0人、年度途中で保育士の確保ができなくて出てきた1人ではないのか。</p> <p>小林課長 待機児童数は、各年度とも10月1日現在の人数となっている。今年度も含め、4月1日現在では待機児童は発生していない。年度途中での保育士確保ができないことが、待機児童発生の大きな要因と考えている。</p> <p>堀委員 一時預かり事業の利用者数だが、令和4年度は令和3年度の平日の1,373人から879人と感染症禍で激減している。感染症禍は令和2年から始まったが、この状況は新型ウイルス感染症という言葉一言で括ってしまうてよいのか。</p> <p>小林課長 新型ウイルス感染症というものは大きな要因であるが、生まれる子どもたちの数が年々減少していることも大きな要因であると考えている。</p> <p>堀委員 市の職員の子育て参加の割合が非常に増えているという発表があったが、これは段々と民間事業所にも広げていかないといけないと思う。この</p>

	<p>ことについて、民間事業所の状況はどのようなものか。</p>
小林課長	<p>民間事業所の状況、具体的な数字は把握できていない。しかし、商工会議所等を通じて各事業所に男性の育児参加についての話はさせてもらっている。</p>
平岡部長	<p>昨年度、資料6ページに記載してある「三条市経済ビジョン」を策定した。この過程において「持続可能な企業体制をとっていくには、よい人材をしっかりと採る、そのためには企業環境・雇用環境をしっかりとっていく必要がある。つまりは子育てしやすいという環境もしっかり備えていく必要がある」という議論があったと聞いている。現時点で三条市の企業風土はそこまで至ってないと捉えている。市役所の取組をここに記載したのは、市役所が一企業として率先して取り組むことで、企業の風土を変えていく必要があると考え、推進しているところである。</p>
野崎委員	<p>指標の状況について、その根拠が分かりにくいものがいくつかある。例えば、児童クラブの利用率についてはどのように設定したのか。</p>
小林課長	<p>資料5ページの児童クラブの利用率については、各小学校の児童数を分母に、児童クラブを利用している児童数を分子にして算出している。</p>
野崎委員	<p>目標値について、仕事をしている共働きの家庭が利用するといったものが分母になっているのか。</p>
小林課長	<p>両親が共働きであるか否かは、全て把握できるものではないため、分母は各小学校の児童数に設定した。児童クラブを利用できるのは保護者の就労等で家に帰っても両親等がいない家庭の児童である。全児童の4分の1、小学生が100人いたとしたら25人が児童クラブを利用することを目標にしている。</p>
野崎委員	<p>児童クラブは放課後行き場のない子どもたちの受入先であるというよりも、子どもたちが気軽に集まれる場という姿勢があるということか。</p>
小林課長	<p>児童クラブについては、簡単にいうと保育所の小学校版であり、保護者の就労等によって帰宅しても両親等がいない子どもたちを預かる場であり、自由に利用できる場所ではない。登録した子どもたちが自由に来て遊べる場として、三条市には児童館が大崎に1か所ある。</p>
真壁委員長	<p>では目標値というのは、だいたい4人に1人は児童クラブが必要であるが、4人に3人は誰か家庭で祖父母など預かってくれる人がいるのではないかとということか。</p>
小林課長	<p>そのとおりで、4人に3人は家に祖父母などがいる場合や、1人でも留守番ができるような子と考え、概ね4人に1人が児童クラブを利用することを目標にしている。</p>

佐藤副委員長	三条市の出産施設の確保は十分なのかという新聞記事を読んだ。出産施設が不足すれば三条市民が市外で出産するようになる。三条市で安心して子どもを出産することができるのか。
平岡部長	三条市の出産可能な施設は、3月までは3施設、4月からは2施設になっている。この環境は、決して十分であるとは思っていない。ただ、医療機関の配置については、県が医療圏域全体として考えていくべき問題であり、一市町村が意見できる話題ではない。これに関しては、しっかり県に対して要望を上げていく必要があると考えている。
佐藤副委員長	この問題に対しては、三条市単独ではなく、新潟県全体として解決するということか。
平岡部長	県央地域においてどこに産科施設が必要であるのか、医師数が限られている中で、県が今後の見込みをしっかりと持った上で、県全体で対応していく必要があると考えている。
佐藤副委員長	出産可能な2施設の具体的な病床数と三条市の昨年度の出生数を月別に教えてほしい。
相場センター長	確認して後ほど報告する。
近藤委員	資料4ページの一時預かりについて、一時預かり事業の拡充の検討とあるが、平日休日ともに拡充する予定があるのか。また、担い手の支援についての検討で、具体的に考えていることがあったら教えてほしい。
小林課長	一時預かり事業の拡充について、ニーズがどの程度あるのかを把握する必要があり、今年度アンケート調査を実施する予定である。この結果を踏まえ、拡充が必要な部分については検討をしていきたいと考える。また、子育て支援団体への支援についても今年行うアンケート結果を基に、どのような支援がよいのかということを検討していく予定である。ファミリーサポート提供会員養成講座については今年度も実施していく。
近藤委員	ファミリーサポート養成講座の受講者は、新規の方がいない状況である。「祖母に預けるのが不安」という理由で、子育て拠点施設の一時預かりを利用される方が、一時預かりの保育担当者が70代が多いことで驚いている。こういったことから、担い手の体制強化というのは少しでも早いほうがよいと思う。一時預かり事業について、ニーズが多いのは0歳児である。実際民間団体でも預かっている件数が多くなってきている。早い対応をお願いしたい。
平岡部長	一時預かりの拡充について補足をさせてもらおう。プランの35ページに一時預かりの拡充という項目がある。プランの期間内の計画として「旧大崎中学校の跡地への私立保育園の移転改築に合わせ子育て支援センター

	<p>を設置し、大崎地区における一時預かりを実施します。」としており、既に大崎地区での一時預かりを実施したことから、評価を「拡充」としたところである。市の問題意識としては、指摘があったように実施する場ではなく、人の確保である。現在、事業に従事いただいているのは「子育て支援グループかるがも」や「シルバー人材センター」など民間の子育て支援団体の方々であり、民間団体等の持続可能性のためにはどうしていくべきなのか、行政としてどう支援していくのかを具体的に考えていく必要があり、検討しているところである。</p>
近藤委員	<p>子育て支援サイトについて、利用者の方から「トップページには支援センターのお便りを更新した、という形があるが、サイトの中の更新頻度はどのくらいか。」と聞かれたがどうか。</p>
小林課長	<p>内容が変わったタイミングで更新しているため、新たな事業を実施する時など、必要に応じて更新している。</p>
近藤委員	<p>実際にサイトを見た母親から、今月の健診等を確認するときに探しづらい。サイトのトップページに今月の予定が掲載されているとよい、という意見があったためこのような質問をした。</p> <p>もう一つ、産後ケアについて、訪問型事業の実施は検討しているのか。産後すぐの、退院したばかりの母親から「体力もないため出かけられない。自宅に来てほしい」と、産後ケアと家事サービスのような形でケアを求める電話が「子育て支援グループかるがも」に来ることがある。通院できない方のためのケアは何か考えているのか。</p>
相場 センター長	<p>産後ケア事業について、訪問型サービスは、助産師による赤ちゃん訪問を実施している中で、相談事があればその助産師や子どもの育ちサポートセンターにいる保健師で対応しているという現状がある。家事支援については、これからのニーズを踏まえて検討していく。</p>
真壁委員長	<p>資料 15 ページに義務教育終了後に引きこもるケースがあると記載されているが、こういったものはなかなか拾いきれない、見えにくいものであると思う。実態を丁寧に把握するためにどのような方法を考えているのか。また、同ページの青少年の相談件数が目標値を遙かに上回っているのは、相談の場が周知されてよいといった評価であるのか、相談が多く由々しき問題であるのか、どのような解釈であるのか教えてほしい。</p>
相場 センター長	<p>義務教育終了後については、高校訪問を実施し、悩みを抱える生徒がいる場合は、青少年相談やサポートシステムへの登録をお願いしている。ただし、全ての高校を訪問しているわけではないため、把握方法については検証していきたい。</p> <p>また、相談件数が増加していることは、それだけ悩みを抱える子どもを把握できているといういい意味で捉えている。</p>
真壁委員長	<p>高校在学中に問題があれば把握できると思うが、卒業後に就職したり進</p>

	<p>学したがうまくいかなかったことの把握はできないと思う。</p>
<p>相場 センター長</p>	<p>御指摘の点はこちらも課題であると捉えている。高校卒業後などの把握方法については、しっかりと検討していきたい。</p>
<p>堀委員</p>	<p>認知件数に対する登録希望者数の割合を積算すると、5～6%ほどにしかならなかったと思う。この子ども・若者総合サポートシステムの登録を希望してくれる人が増えないという現状に対し、何か具体的な対策はあるのか。</p>
<p>相場 センター長</p>	<p>こちらが認知していても保護者などが現時点において支援されていることから登録の必要がないと考えていることが、認知件数に対して登録が少ないという要因の一つである。</p> <p>これはサポートシステムに登録していることで乳幼児から就労・自立に至るまで切れ目なく一貫した支援が受けられるという周知がまだ足りていないものと考えている。サポートシステムへの登録方法や周知方法等についても今年度しっかり検討したい。</p>
<p>佐藤 副委員長</p>	<p>三条市の子育て支援施策で、他の市町村と比べ、ここは絶対に負けないというようなものはあるのか。</p>
<p>平岡部長</p>	<p>あくまで、個人の見解を申し上げますと、子育て支援施策の競争にはあまり目を向けていない。それよりも、今、子育てをしている方たちに何が必要で、何に困っているのかに目を向け、1つ1つの取組を着実に進めていくことが重要である。</p> <p>今まではどちらかというところ施設整備などの基盤整備や、大きな制度の枠組みを盤石な体制にしていくことに着目してきた。その結果として、給付や手当といった経済的な支援には手が届かなかった面もある。しかしながら、この2年3年は、経済的支援にもしっかり目を向けてサービスを充実してきた結果、他市町村に引け目をとらない充実したサービス体制を整えることができたと捉えている。当市の子育て施策のどこが自慢かというところ、具体的に1つ1つの施策を前面に押し出しているわけではない。まずは1つ1つニーズや困りに作用していくこと、これに尽きると考えている。</p>
<p>相場 センター長</p>	<p>先ほど、佐藤副委員長から質問のあった、分娩病床数及び昨年度の出生数について報告する。</p> <p>出産可能な施設の分娩病床数について、済生会は把握しているのが全病床数のため、分娩病床数を確認中。レディースクリニック石黒の分娩病床数は、19床となっている。</p> <p>令和4年度の三条市の月別出生数は、4月26人、5月53人、6月40人、7月41人、8月46人、9月43人、10月37人、11月35人、12月39人、1月35人、2月34人、3月36人、合計465人となっている。</p>
<p>真壁委員長</p>	<p>しばらくして質問も無いので、本件について、承認することよろしい</p>

<p>真壁委員長</p> <p>小林課長</p>	<p>か。</p> <p>【異議なく承認】</p> <p>4 その他</p> <p>それでは、事務局からその他として何かあれば、願いたい。</p> <p>頂戴した意見は、施策の検討を進めていく中でぜひ参考にさせていただきたい。</p> <p>今後の会議の開催について、今年度は、来年度（令和6年度）に第三期プランを策定するためのアンケート調査を実施する予定で、あと2回開催したいと考えている。日程については、委員長と調整し後日案内させていただく。</p> <p style="text-align: right;">（午後3時05分閉会）</p>
--------------------------	---